



一般社団法人

# 日本肩関節学会

Japan Shoulder Society

Newsletter

15

2021.01

## ▶ 理事長あいさつ

一般社団法人日本肩関節学会理事長 池上博泰



日本肩関節学会会員の皆様、紙面をお借りしてご挨拶を申し上げます。

新しい年が会員の皆様にとりましていっそうの飛躍の年になることを祈念いたしますとともに、2021年も何卒よろしくお願い申し上げます。新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大に伴い、診療中も感染防止に神経を使われ、また厳しい医療機関の運営状況にご苦慮されている先生も多くいらっしゃるかと拝察いたします。

さて、2020年10月に二期目の理事長を拝命しました。ご支援頂きました会員、代議員の皆様には厚く御礼申し上げます。6月に発行されたニュースレター14号からこの6ヶ月の活動を4点に絞ってご説明申し上げます。

### 1. 学術集会の開催

学会のもっとも大きな事業は学術集会の開催です。第47回学術集会が末永直樹会長のもと札幌市で開催されました(2020年10月9-10日)。また第17回日本肩の運動機能研究会が船越忠直会長のもと同時に開催されました。

COVID-19の状況を踏まえて、開催方法については末永会長と理事会との審議の結果、現地開催とWEBとのハイブリッド開催となりました。大きなトラブルやクラスターの発生もなく無事に学術集会が開催できたのは、末永会長をはじめ関係者の皆様のたいへんご苦勞のおかげです。あらためて感謝申し上げます。第47回学術集会の詳細については、本号のニュースレターで末永会長からの記事を参照していただけたいと思います。第48回学術集会は岩堀裕介会長のもと、2021年10月29-30日に名古屋市で開催予定です。

### 2. 日本肩の運動機能研究会

ここ数年議論を重ねてきた、学術集会時に併設されている肩の運動機能研究会と本学会との関係についてご報告します。以前のニュースレターでもご報告したとおり名称を「日本肩の運動機能研究会」に変更し、日本肩関節学会の傘下として活動しています。会員種別に準会員1号・2号を設定して、それらに伴う会員規則の変更や委員会規則の変更がありました。2020年の第17回日本肩の運動機能研究会は、日本肩関節学会の傘下として初めて開催され、関係者のみなさまのお力で非常に充実した研究会となりました。第18回日本肩の運動機能研究会は飯田博己会長のもと、2021年10月29-30日に名古屋市で開催予定です。

### 3. 代議員6年目の評価

2020年の社員総会で3名の新代議員が選出されました(本号のニュースレターでご挨拶があります)。代議員は、代議員選出規則第8条にあります評価項目および評価基準によって6年毎に審査が行われます。2020年は一般社団法人となって6年を経過して7年目をむかえたことから、初めてこの代議員6年目の評価が必要となりました。この審査を行うにあたっては、代議員資格審査委員会を新たに立ち上げて委員会内で審議していただきました。この代議員資格審査委員会は、前号のニュースレターでもご報告したとおり、理事および各委員会の委員長で今回の6年目の評価の対象になっていない理事1名、代議員7名で構成されました。評価の対象となった代議員28名に対して、学会活

動および学術活動について厳正な審査をしていただきました。同じ代議員（しかも多くは先輩たち）を評価するということは、非常にタフな仕事だったと拝察いたします。あらためて感謝申し上げます。

#### 4. 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の感染拡大下での活動

この原稿を書いている時点では東京で連日 1,000 人を超える新規感染患者が出ている状況です。おそらくこのニュースレターが発行される頃には、感染者は世界で 1 億人を超えていることと思います。まずは会員のみなさまの健康を第一に考えて行動していただきたく存じます。ご自分の健康を確保した上でのご家族、患者さんの健康であることは言うまでもありません。本学会もこの原則を遵守して、活動をしていきたいと考えています。

2018 年の第 45 回日本肩関節学会学術集会から会員連絡会が中止となっています。2020 年は末永会長のご配慮でハイブリッドでの会員連絡会がありました。本学会からのお知らせは逐次 WEB SITE で更新しておりますのでご覧頂けたら幸いです。

末筆になりましたが、会員の皆様から学会に対する要望等ございましたら事務局宛にお知らせください。

## ▶ 新理事・新監事あいさつ

副理事長 岩堀裕介

(あさひ病院 スポーツ医学・関節センター長)



この度、日本肩関節学会理事三期目を務めさせていただくことになりました。1988 年 10 月に本学会に入会して 32 年、2008 年 11 月に幹事（現在の代議員）となって 12 年の年月が経過しました。理事一期目は柴田陽三前理事長の下、財務委員会担当理事を、二期目は池上博泰理事長の下、財務委員会・肩の運動機能研究会（現 日本肩の運動機能研究会：以下研究会）運営委員会・学術集会運営ワーキンググループの担当理事を拝命しました。三期目は、二期目と同様に財務委員会・研究会運営委員会・学術集会運営ワーキンググループの担当理事を務めると共に、池上理事長を副理事長としてサポートさせていただきたいと存じます。

財務委員会に関しましては、まず 2020 年度で一般会計から高岸直人賞口座への 5 年計画での返済が完了します。学会の収支につきましては、準会員の入会者の急増、COVID-19 禍の影響で交換留学などのイベントが中止されることにより収支は黒字が見込まれますが、学会の健全な運営のために収入の増加と経費の節減のために、中川滋人委員長をはじめとする財務委員会の先生方や柄澤徹アドバイザーと共に努力を続けたいと思います。

研究会運営委員会に関しては、2020 年から研究会における発表者（共同演者を含む）は日本肩関節学会の正会員または準会員であることが義務づけられ、2020 年 3 月から準会員 1 号・2 号に二層化しての新規入会募集が開始され、2020 年 10 月 8 日の社員総会にて研究会会則と研究会運営委員会規則が承認され、10 月 9 日から継続的な研究会として船出しました。今後、日本肩関節学会とともに研究会が会員の先生方にとってより充実した研鑽の場となるように、浜田委員長をはじめとする研究会運営委員会や世話人会の諸先生方とともに運営にあたりたいと思います。

学術集会運営ワーキンググループに関しましては、第 47 回日本肩関節学会学術集会が COVID-19 禍の中、末永直樹会長のご尽力によりハイブリッド形式で開催されましたが、今後当面の間、with COVID-19 環境下での安全な学術集会の開催が求められます。末永直樹グループ長をはじめとするワーキンググループの諸先生方と知恵を出し合って、この難関を切り抜けていきたいと思っています。

本学会が、健全で活気ある、そして社会的・国際的にも貢献できる学会として発展できるように、これからの 2 年間理事という立場で本学会に貢献させていただきたいと考えております。どうか宜しくお願いします。

## 理事 伊崎輝昌

(福岡大学医学部整形外科学教室)



この度、日本肩関節学会理事(2期目)を拝命いたしました伊崎輝昌でございます。皆様から多大なご支援を賜りましたことに感謝申し上げます。私は、ひきつづき高岸直人賞決定委員会、定款等検討運用委員会を担当させていただくことになりました。

高岸直人賞は、45歳以下で過去の受賞者を除く当該年の学術集会発表論文から選考を行います。投稿雑誌の制限を廃して以降、優れた英文論文が審査対象となっていることは大変喜ばしく思っております。高岸直人賞決定委員会においては、審査過程での公平性をより厳格に担保するため、今年度から、委員を増員して17名で審査を行うこととしました。会員の皆様におかれましてはひきつづき、奮ってご応募していただくようお願い申し上げます。

定款等運用委員会においては、2020年10月の社員総会において日本肩の運動機能研究会会則と日本肩の運動機能研究会運用委員会規則を社員総会で承認いただきました。定款等運用委員会委員ならびに日本肩の運動機能研究会運営委員会委員をはじめ、策定作業にご支援ご協力いただきました皆様に心から感謝申し上げます。定款等運用委員会では、ひきつづき、既存の規則等の改定や、新たな規則等の策定に対応して参ります。

コロナ禍が社会や経済に大きな構造変化をもたらす中、当学会もその影響を免れることはできません。理事として、これまで培われてきた本学会の伝統を継承し、さらなる発展ができますよう努力する所存でございます。皆様の負託にお応えできますよう、全力を尽くしますので、何卒ご指導ご鞭撻いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 理事 今井晋二

(滋賀医科大学 整形外科)



次世代の運動器の治療を担う分野では、再生医療など先端医療を担えるような教育や研究が要求される一方で、拡大し続ける高齢者人口の運動器の治療と地域・在宅医療の担い手となるべく裾野の広い教育と訓練が要求されています。肩関節の分野でも、腱板再生を促す再生医療やスポーツ分野での再生医療の応用が求められています。同時に人口の高齢化に伴う上腕骨近位部骨折は増加の一途にあります。日本整形外科学会ではこれに対応すべく、これまでの「安全使用」に加えて「使用促進」の意味も加えて、2020年からリバース型人工肩関節の実施医基準を改訂しました。すなわち、腱板手術の経験がなくても、上腕骨近位部骨折の経験がある程度あれば実施医に申請できるように、門戸が拡大されました。臨床の現場では欧米のように手術に特化するだけでなく、肩に関する幅広い役割が期待されています。すなわち、肩の疼痛コントロールやリハビリテーション医学を駆使する能力が求められています。

このように大学病院など高度専門的施設から全国津々浦々の診療所に至るまで、肩関節外科医によって提供される医療資源には、幅広い多様性が要求されています。今後さらに、肩関節外科医に依存する領域・分野は深化していくと考えられます。日本肩関節学会は今後、拡大・深化しつつある肩関節外科の教育・研究・臨床に大きな責任を負います。浅学菲才の身ではございますが、少しでもお役に立つことができればと考えております。宜しく願い致します。

理事 菊川和彦  
(マツダ病院整形外科)



この度、伝統ある日本肩関節学会理事を拝命いたしましたマツダ病院の菊川和彦でございます。私は、1994年本学会に入会、2013年評議員(現代議員)に就任、その後、雑誌「肩関節」編集委員会、社会保険等委員会、40周年誌編集委員会、日本肩の運動機能研究会運営委員会(肩の運動機能委員会ワーキンググループ)を担当し、活動してまいりました。また、第43回日本肩関節学会併催の第13回肩の運動機能研究会では会長を務めさせていただき、多職種との連携についても経験させていただきました。今回、ご支援およびご信任いただきました諸先生方の負託にこたえるべく、理事会の一員として全力を尽くす所存です。

さて、理事就任にあたり、これまで経験のない教育研修委員会を担当することとなりました。教育研修委員会の主な活動は肩関節の基本事項を学ぶ研修会と技術を学ぶワークショップの開催です。日本肩関節学会には、諸先輩方が学会や講演を通じて若手の医師に厳しくも温かい指導、教育をしてきた素晴らしい歴史があります。その良き伝統をふまえ、後藤英之委員長や担当いただく諸先生方のご協力を仰ぎながら、次世代を担う若手医師が優れた研究や臨床ができる礎になるような研修会、ワークショップを企画、運営したいと考えています。

本年度は、コロナ禍のため、キャダバーワークショップを開催できませんでした。今後しばらく海外でのキャダバートレーニングは開催できず、国内で行われる本委員会のキャダバーワークショップが期待される状況になると思われます。来年度はぜひ開催できるよう鋭意準備したいと存じます。

若輩者でもとより浅学非才の身ではありますが、伝統ある日本肩関節学会の発展に少しでも貢献できるよう誠心誠意、努力いたします。今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

理事 菅谷啓之  
(東京スポーツ&整形外科クリニック)



このたび日本肩関節学会の理事に再任させていただきました。私は1987年千葉大学医学部卒業後、千葉大学関連施設にて初期研修を行う中、肩関節疾患の治療に興味を持ち、1993年の長崎での日本肩関節学会から本学会の会員に加えて頂きました。この間、同門および同門外の諸先輩の皆様の現在に至るまでのご指導とご交誼、さらに本学会を通して知己を得ることができた後輩を含めた多くの諸先生方のご指導とご交誼のおかげで、肩関節外科医として成長することができたと確信しております。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

千葉大学での後期研修を終えてからは、ひたすら肩関節疾患の日常診療に没頭してまいりましたが、自分にとっての大きな転機は1996年に米国への3カ月の短期留学でありました。これ以降、海外にも広く目を向けるようになり、肩関節鏡先進国であった北米や欧州の学会にも積極的に参加して情報収集と自らの臨床の軌道修正を行うと同時に、自分に足りない部分や優っている部分を確認し、自らの臨床データに基づき、多くの学会発表や論文公表を行って参りました。その結果、2002年以降、海外からの講演やライブ手術などに数多く招待されることとなり、コロナ禍となる前は年間100日程度も海外出張を重ねておりましたが、現在でもリモートでの講演など多数こなしております。海外のトップサージョンと呼ばれる人々との交流を通じて、日本の肩関節外科の優れている点、すなわち、関節鏡手術の技術と理学診療のレベルの高さと、キャッチアップしていかなければいけない点、すなわち、人工関節手術の歴史の浅さが見えてきて、これを何とか改善しようと制度的にも学術的に

も努力してまいりました。

このほど私事ですが、18年間勤務いたしました船橋整形外科病院を辞し、さらに肩・肘診療の効率化を図るべく2020年9月に東京・池袋で東京スポーツ&整形外科クリニックを開設いたしました。今後は、教育と人材育成に投資できる環境を構築して、引き続いて担当させて頂く国際委員会およびリバース型人工関節運用委員会を通じて、自分を育ててくれた日本肩関節学会に恩返しのつもりで身を賭して貢献していく所存ですので、どうぞ皆様よろしくお願い申し上げます。

## 理事 高瀬勝己

(東京医科大学 整形外科分野 運動機能再建外科学)



この度、一般社団法人日本肩関節学会理事に2期目の選出をしていただきました東京医科大学整形外科の高瀬でございます。1期目は学術委員会の担当理事、社会保険委員会のアドバイザーを拝命致しました。学術委員会では浜田純一郎先生が中心となって凍結肩のアンケート調査をしていただいた論文が Title: Representative survey of frozen shoulder questionnaire responses from the Japan Shoulder Society: What are the appropriate diagnostic terms for primary idiopathic frozen shoulder, stiff shoulder or frozen shoulder (Journal of Orthopaedic Science

Vol. 24(4):631-635, 2019)、私が担当させて頂いた肩鎖関節脱臼のアンケート調査を診断編とした論文が Title: Methods used to assess the severity of acromioclavicular joint separations in Japan: A survey (JSES International Vol. 4(2): 242-245, 2020)、治療編とした論文が Title: Treatment of acromioclavicular joint separations in Japan: A surveyとしてJSES Internationalに採用されました。一方、2021年開催予定の第94回日本整形外科学会学術集会のシンポジウム案として委員会で作成した複数案を理事会に提出し、理事会にて選考された2演題が学術集会シンポジウム演題として両者採用されております。

この2年間の学術委員会業務は一定の成果を得られたものと思っております。2期目も学術委員会の担当理事を再度拝命しております。今後は、新たなテーマとして①本邦における肩甲骨関節窩OCDの疫学調査、②腱板断裂の脂肪変性に関する調査を検討しております。これらの調査が、会員の先生方と共有できる考え方を模索できればと考えております。また、社会保険委員会ではアドバイザーに再任される予定でありますので、臨床で活躍されている会員の先生方に保険診療において正当な評価を得られることを念頭に活動したいと考えております。さらに、学会業務としてtravelling fellowの関東地区担当をさせて頂いている関係上、海外の先生方とより多くの会員の先生方に多くのコミュニケーションあるいは討論の場を設けさせて頂き学会のグローバル化に貢献していきたいとも考えております。

2022年10月7日・8日にはパシフィコ横浜ノースで第49回日本肩関節学会学術集会を主催させて頂く予定です。現時点ではコロナ関連の影響がどの程度あるかは推測できませんが、活気ある学会の再開を目指して計画をしていきたいと考えております。

若輩者ではありますが、今後の日本肩関節学会の発展に少しでも寄与したく考えております。日本肩関節学会会員の皆様、今後もしろしくご支援を賜りたくお願い申し上げます。

## 理事 田中 栄

(東京大学医学部整形外科)



この度日本肩関節学会理事に就任いたしました、東京大学の田中栄です。

私は1987年に東京大学医学部を卒業後、東京大学医学部附属病院、三井記念病院、東京通信病院、武蔵野赤十字病院で主としてリウマチ・関節外科を専門分野として研鑽を積んできました。また1999年には半年間クリニカルフェローとして米国ヴァージニア州のAdvanced Orthopaedic Centersに留学し、人工関節置換術を中心とした臨床に従事いたしましたが、その際に腱板損傷や変形性肩関節症や関節リウマチ肩病変などに対する人工肩関節置換術の手術を数多く経験し、肩関節に興味をもつようになりました。帰国後は東京大学医学部整形外科でリウマチ外科および肩関節外科のチーフとして診療を行ってきました。

これまで私は骨代謝、骨粗鬆症、関節リウマチなどの分野を活動の中心としてきました。日本骨代謝学会では2019年まで理事長を務め、日本臨床リウマチ学会では2020年9月より理事長を務めております。骨軟骨代謝や炎症という観点から肩関節疾患には大変興味をもっております。また基礎研究の観点から、肩関節の安定性を規定している分子メカニズムにおける関節包の役割にも興味をもっております。理事会では広報委員会担当理事としてホームページの充実などにも取り組んでまいりたいと存じます。自分自身肩関節外科の経験、知識とも不足していることは痛感しておりますが、今後とも日本肩関節学会の発展のために尽力したいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻、何卒よろしくごお願い申し上げます。

## 理事 橋口 宏

(米倉脊椎・関節病院 肩関節外科・スポーツ医学)



この度、伝統ある日本肩関節学会の理事として二期目を務めさせて頂くことになりました。御支援を頂戴致しました先生方の負託にお応えできますよう、可能な限り努力を傾注するよう心掛けて参りたいと存じます。

1989年に本学会に入会して以来、肩関節学を極めるべく日々学んで参りましたが、その基礎から診断・治療は目覚ましく発展を遂げ続けていることを感じております。しかし、残念ながら医療経済的面ではその発展に対して十分な支援が得られているとは言い難いです。御存知の通り、高齢化の進展に伴う医療・介護の必要度の増加にも関わらず、政府の

財政健全化改革を受け、診療報酬全体はマイナス改定が続いております。2020年度診療報酬改定では、手術の全体平均がプラス4.19%であったのに対して、整形外科領域である筋骨格系・四肢・体幹における改定率はプラス0.98%と微増に留まりました。肩関節外科分野においても、保険収載されていない医療技術が未だ多数認められ、関節鏡手術における高額な単回使用製品の問題も解決されておられません。治療に対する相応の対価を得ることは、適切な医療を行い、医療技術を発展させる上でも最低限の条件であると考えます。

一方で、日本医学会の「COI管理ガイドライン」改定に伴い、日本整形外科学会でも「COIに関する指針」が改正され、2017年9月21日会告として通知されました。さらに、2018年4月1日からは産学連携臨床研究に関する臨床研究法が施行されました。医学研究の公正さと社会的責任を果たす観点から本学会でも2016年より倫理・利益相反委員会が設置され、COI指針が策定されております。

社会保険等委員会および倫理・利益相反委員会担当として、医療経済ならびに倫理の両側面から、本学会会員の医療技術の発展と基礎・臨床研究の積極的推進のため、微力ではありますが引き続き尽力していく所存です。

今後とも諸先生方からの御指導・御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## 監事 中川泰彰

(国立病院機構京都医療センター整形外科)



2020年10月8日の社員総会で、日本肩関節学会の監事に推薦、承認され、再び監事を仰せつかりました中川泰彰です。

私が日本肩関節学会に入会したのは、確か1990年です。初めて肩学会に参加し、若手が自由に議論、発言し、活発な学会だなあと感嘆いたしました。それから、肩関節の魅力に取りつかれて、1996年に京都大学に帰学してからは、最近まで毎年肩関節学会に演題を応募し続けてきました。ただし、脱臼、腱板などの主疾患では、症例数で他施設と肩を並べることができないため、変形性肩関節症などの角度を変えた演題が中心でした。

また、学会活動としては、2004年に幹事に立候補するも、2/3の推薦が得られず、落選し、2008年に再度立候補し、幹事に就任することができました。その後、高岸賞直人賞選考委員会、一般社団法人へ移行するための定款等検討委員会などを経由し、監事に就任するまでは定款等運用委員会委員長として、活動させていただいておりました。2年前に監事を仰せつかりましたが、監事は理事と違い、新しいことを提案するのではなく、理事や代議員、一般の正会員が行おうとすることが、間違いではないことをチェックする役割と考え、努めてまいりました。この2年間は大きな過ちなく、日本肩関節学会が、役員、代議員、名誉会員、正会員、準会員などみんなで力を合わせて、邁進することができたと思っております。上記のごとく、今までいろいろな出来事に遭遇してまいりました。これらの経験をもとに、もう1名の監事である森澤豊先生と力を合わせて、今後の日本肩関節学会の運営に貢献し、監事の役割を務めていくことができたらと存じます。理事、代議員、一般会員の皆様方、どうぞよろしく願いいたします。

## 監事 森澤 豊

(高知県立あき総合病院 整形外科)



2019年10月から監事を拝命致しております。本学会では毎年活発な討論はもとより海外からの演者による講演が開催されてきましたが、コロナ禍により開催や運営の方法が変更されることになりました。第47回学術集会は末永直樹会長のもと2020年10月9日から10日に、ハイブリッド形式により十分な感染対策のもと開催され成功裏に終了しています。

関連する行事としてトラベリングフェローやキャダバーワークショップなどが中止され、これまでにない変更を余儀なくされており担当理事や委員会の先生方のご苦勞に感謝申し上げます。新たに日本肩の運動機能研究会が発足し、構成する準会員1号、2号の方々の入

会を受け入れることで、学会のさらなる発展、拡大が期待されています。

中川泰彰先生とともに、学会の運営状況や収支決済について会計監査におきましても、例年とは異なる動向を把握し遺漏なきよう努めて参りたいと考えますのでよろしくお願い致します。

## ▶ 新代議員あいさつ

### 糸魚川善昭

(順天堂大学医学部付属浦安病院)

この度、伝統ある日本肩関節学会の代議員に就任させていただきました順天堂大学付属浦安病院の糸魚川善昭です。私は2001年に順天堂大学整形外科に入局し、2年の研修を終了後一般病院に勤務しておりました。その頃、目の前にいる肩関節痛のある患者さんは数多くいるのにどのように診断治療してよいのか分からない、という思いから徐々に肩関節にのめりこむようになり、2008年から本学会に入会させていただき、学会を通じて多くのご指導を賜り精進させていただきました。2008年から肩の基礎研究を学ぶため東北大学に国内留学をさせて頂き、井樋栄二教授をはじめ東北大学の先生方のご指導の下、腱板断裂後の筋脂肪変性の分子メカニズムの研究を行い、その後は肩バイオメカニクスの研究のため、Mayo Clinicに2012年から2年間研究留学をさせて頂き、肩関節をより深く勉強させていただきました。留学後は現在の順天堂大学に戻り年間150件程度の肩関節手術や臨床を行う傍ら、主にエラストグラフィの研究を行い、大学院生の研究指導も行ってきました。2016年には本学会のヨーロッパトラベリングフェローとして、特にまだ自分自身が未熟であったリバース型TSAを中心に勉強させて頂き、今もその時に学んだ知識や技術が実際の臨床にいかされていると思います。2019年から某プロ野球球団のチームドクターとなったため、横浜南共済の山崎哲也先生にプロ野球選手の診断や治療について今も勉強させていただいております。このように、長年日本肩関節学会ならびに諸先生方には多大なる恩義があり、それを代議員として少しでもお返し出来ればと考えております。今後とも未熟ではありますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、代議員選挙にあたりまして推薦人となっていただきました東北大学：井樋栄二先生、横浜南共済病院：山崎哲也先生をはじめとする多くの先生方の多大なる御支援に深謝したいと思います。

### 設楽 仁

(群馬大学整形外科)

この度、福岡大学伊崎輝昌先生、高崎健康福祉大学小林勉先生に推薦人になって頂き、日本肩関節学会の代議員に選出していただきました群馬大学整形外科の設楽仁です。

私は、2003年に群馬大学を卒業し、群馬大学整形外科に入局しました。同年に高岸憲二群馬大学名誉教授が第30回日本肩関節学会を群馬県前橋市で開催され、そのご縁で肩関節外科医を目指すことを決めました。

高岸憲二先生の指導の下、肩関節外科医としての臨床および基礎研究に励んでまいりました。臨床面では、船橋整形外科病院に国内留学させていただき、菅谷啓之先生の指導の下、関節鏡手術を中心に多くのことを学びました。また研究面では、整形外科疾患における脳の代償メカニズムの解明の研究を中心に行っており、2013年には『反復性肩関節前方脱臼における中枢神経の代償性変化-fMRI研究-』で第27回高岸直人賞を受賞しました。2014年から約3年間米国衛生研究所(NIH)に留学し、人を対象とした運動制御に関する中枢神経機能の研究に従事しました。NIHにある病院(Clinical Center)は、ほかの多くの病院と異なり、標準的な診断や治療サービスの提供はせず、臨床試験のために患者を受け入れます。研究プロトコル作成、倫理委員会への参加、被験者へのインフォームドコンセント、研究の実施など、臨床試験に不可欠なプロセスを世界基準で学べたのは、帰国後の臨床研究の実施にあたり大変役立っております。2017年より群馬大学整形外科へ戻り、肩班チーフとして、肩関節疾患の診療や研究に従事しております。

これまでの経験を活かし、学会の運営や発展に少しでも貢献できればと思っております。どうぞよろしくお願いたします。



最後に代議員選挙にあたりまして群馬大学名誉教授高岸憲二先生をはじめとする多くの先生方に多大なる支援をいただきましたこと、感謝申し上げます。

## 山口 浩

(リハビリテーションクリニックやまぐち)

この度、日本肩関節学会代議員に選出していただきました山口浩と申します。

私は1998年に日本大学を卒業し、同年琉球大学整形外科へ入局致しました。学生時代ラグビー試合中に右肩鎖関節亜脱臼、左肩関節脱臼を受傷したことをきっかけに整形外科、特に肩関節分野に興味を持ちました。

入局後の2001年琉球大学肩関節外科の黎明期を支えた呉屋勲先生(当時、沖縄赤十字病院)、2002年済生会新潟病院塩崎浩之先生、2005年シドニー大学 David Sonnabend 先生、2006-2007年北新病院末永直樹先生のもとで肩関節疾患について研鑽致しました。帰沖後、琉球大学病院勤務を経て、リハビリテーションクリニックやまぐち 副院長・琉球大学整形外科 非常勤講師として学生講義、関連病院での手術、若い先生方と共に臨床研究を行っております。

臨床研究を行っていく中で長期成績の重要性を痛感致しております。沖縄県は離島県であり、患者さんの移動が少なく、長期経過の観察に適した地域と考えております。帰沖当初に治療に携わらせていただいた患者さんが10年を超えてきました。これから徐々に長期成績を発信できるものと考えており、肩関節学会会員の皆様にも必ず貢献できるものと信じております。

微力ではございますが、日本肩関節学会のさらなる発展のため尽力する所存でおりますので、今後ともご指導の程宜しくお願い申し上げます。

## ▶ 第47回日本肩関節学会学術集会を終えて

第47回日本肩関節学会学術集会 会長 末永直樹

(整形外科 北新病院 上肢人工関節・内視鏡センター センター長)



"反省と革新 - 世界へ発信する -" というテーマで3年前からほぼ毎月1回の打ち合わせを通じて準備してきました。14人の海外の著名な肩関節外科医と参加者によるシンポジウムや講演、種々の企画など、新型コロナウイルス感染症蔓延で多くの企画は中止となり、現地参加者の数も制限されてしまう現地参加とリモート参加によるハイブリッド開催となってしまいました。フィジカルディスタンス確保の為、約4分の1の入場者数を想定し、現地参加者の皆様の条件を厳しく設定せざるを得ず、結局、現地参加者約190名、リモート参加者593名と通常の数程度の参加者数となってしまいました。しかしながら、参加していただいた先生にはたくさんの質疑応答で盛り上げて頂きました。一方、感染対策をしっかりと行い、参加の先生にも感染予防にご協力いただいたため、クラスターも発生せず細かなトラブルはあったものの成功裏に終わりました。この誌面をもちまして深く御礼申し上げます。

本学会では各演題を5人の代議員の先生に査読していただき、最高点と最低点を除いて3人の先生の採点数を平均化し、2.5点以上を原則的に採用させていただきました。その結果、91%の充実した演題が採用になりました。また、第1日目夜、Failed case conferenceとして、12題の"複数回手術した人工肩関節置換術例"の症例検討を3時間に渡り行いました。反省例を発表することは非常に勇気のいることであり、一方で聴衆の先生のが得る

ものは多大であったと思います。発表いただいた先生には深謝させていただくと共に今後の学会でも反省症例の検討が継続して行われることを期待しています。

"世界へ発信する"ということはしっかりした査読のある英文ジャーナルに論文を載せることになります。本学術集会では英文論文としてアクセプトされやすい研究手法を主題に選び、十分な質疑応答で研究の問題点を明らかにして欠点の少ない論文を仕上げたいという気持ちから、抄録は1000字とし、質疑応答の時間が十分とれるようにし、また充実した進行のため2人の代議員または名誉会員の先生に座長を務めて頂きました。この学術集会の発表演題からたくさんの英文論文が世界に発信されることを願ってやみません。

末筆にはなりますが早くコロナ禍が終わり、全ての先生がワイワイと現地で参加できる日本肩関節学会学術集会が開催されることを祈念しています。



## ▶ 第48回日本肩関節学会学術集会会長あいさつ

第48回日本肩関節学会学術集会 会長 岩堀裕介

(医療法人三仁会 あさひ病院 スポーツ医学・関節センター長)



この度、第48回日本肩関節学会学術集会を2021年10月29日(金)、10月30日(土)に、ウインクあいち(愛知県産業労働センター、名古屋市)にて開催させていただく事となりました。日本肩関節学会は、肩関節領域において世界で最も歴史のある学会であり、国内のみならず世界に向けて貴重な情報を発信し続けております。整形外科分野の中でもその専門性の高さと学術集会の熱気は日本でも有数の学会であり、本学術集会を主宰できることは非常に名誉なことと考えております。東海地区で開催されるのは初めてのことであるため、その喜びはひとしおであるとともに身の引き締まる思いです。1988年10月に本学会に入会して32年、2008年11月に幹事(現在の代議員)となって12年の年月が経過した私にとって、

本学術集会は集大成と恩返しの場合と考えております。

学会のテーマは、私の人生のモットーである「プロ意識、熱意、思いやり (professionalism, passion, empathy)」とさせていただきます。日常診療や研究活動において、この3つ項目はいずれも欠けてはならないと考えており、その想いを本学会のスローガンに掲げ、特別講演、シンポジウム、パネルディスカッション等のプログラムを企画中です。腱板断裂や外傷性肩関節不安定症のほか、投球障害肩、胸郭出口症候群、多方向肩関節不安定症など病態解明や治療方針に課題の多い病態にもスポットライトを当てたいと考えております。

本学術集会の参加者数は、併設の日本肩の運動機能研究会を含めると、近年増加して1,600名を超えるま

でになりました。2020年の第47回はCOVID-19禍の中、末永直樹会長の熱意とご尽力によりハイブリッドでの開催に漕ぎ着けましたが、参加者数の大幅な減少を余儀なくされました。2021年の第48回は、この逆境を何とか跳ね返して、肩関節を愛する会員の皆様に是非名古屋に集まって熱い議論を繰り広げていただきたいと思います。医療法人三仁会関係者のほか、名古屋大学整形外科同門会、東海地区の会員の先生方のご協力を仰いで、できる限りの準備をしていく所存ですので、会員の皆様のご参加を宜しくお願いいたします。

## ▶ 第49・50回日本肩関節学会学術集会のお知らせ

### 第49回日本肩関節学会

学術集会会長：高瀬勝己（東京医科大学 整形外科分野 運動機能再建外科学）

開催日時：2022年10月7日（金）～8日（土）（予定）

開催場所：パシフィコ横浜ノース

### 第50回日本肩関節学会

学術集会会長：池上博泰（東邦大学医学部整形外科学講座（大橋））

開催日時：2023年10月13日（金）～14日（土）（予定）

開催場所：東京

## ▶ 各委員会報告

### 雑誌「肩関節」編集委員会

委員長 佐野博高

雑誌「肩関節」第44巻には、学術集会発表論文95編、原著・総説7編、症例報告24編、Proceeding23編の合計149編の論文をご投稿いただきました。査読の結果、最終的に137編が採用され、現在、オンライン上に1号～3号として公開しております。

さて、本誌では、近年URLやQRコードなどweb siteの情報を掲載した論文が散見されるようになりました。しかし、当委員会としては、リンク先のweb siteが科学的な情報だけを掲載しているとは限らない、特に私的なsiteなどにおいては記載内容の恒久性が必ずしも担保されていない、などの問題があると考えています。そのため、当面URLなどの情報については、公的機関の統計資料など議論を進めるために必要不可欠なものに限ることとし、その旨を投稿規定の「文献」の項に追記しました。インターネットを取り巻く社会情勢は今後も刻々と変化していくと予想されますので、当委員会としても継続的に検討していきたいと考えています。

次に、今回は、投稿図のファイル形式についても検討を行いました。これまでの投稿規定では、「図はjpeg形式で投稿する」と定められていましたが、図内に文字や記号を挿入するためにPowerPointを利用される投稿者が多いことを踏まえて、今後はPPT形式の図も受け付けることとしました。ただし、PPT形式のファイルは、編集の過程で文字のずれなどの問題を生じる可能性がありますので、その点には十分ご留意下さいますようお願いいたします。

当委員会では、投稿者の利便性を向上させるために、投稿規定やチェック表を随時改訂しています。本誌に論文を執筆される際は、日本肩関節学会のweb site「雑誌「肩関節」への投稿規定について」



(<http://www.j-shoulder-s.jp/entryrule/index.html>) で、必ず最新の情報をご確認下さるようお願いいたします。

担当理事：今井晋二

委員長：佐野博高

副委員長：内山善康、鈴木一秀

委員：新井隆三、石毛徳之、糸魚川善昭、伊藤陽一、北村歳男、黒川大介、後藤昌史、小西池泰三、西須孝、酒井忠博、塩崎浩之、設楽仁、杉本勝正、田中誠人、田中稔、谷口昇、仲川喜之、中溝寛之、夏恒治、二村昭元、三幡輝久、村成幸、山門浩太郎、山口浩、山崎哲也

アドバイザー：中川照彦

## 国際委員会

委員長 三幡輝久

現在全てのトラベリングフェローは、新型コロナウイルス感染が拡大している状況を鑑み、中止させていただいております。日本だけでなく、相手国のコロナ感染が終息するまでは再開することは難しいと考えております。また再開の時期が決まりましたらお知らせいたしますので、その際はご応募をよろしくお願い申し上げます。現時点での予定を下記に列举します。

- 2020年ASESトラベリングフェロー：募集しましたが選考・派遣中止  
次回は、2021年に改めて募集開始、2022年5月選考、10月派遣予定
- 2020年SECECトラベリングフェロー：募集・選考後、派遣中止  
2022年9月にスライド派遣
- 2021年SECECトラベリングフェロー受け入れ：2021年10月に予定
- 2021年3月派遣予定のKSESトラベリングフェロー：募集・選考中止。次回は、2022年5月募集、10月選考、2023年3月に派遣予定

また、現在ASESからのトラベリングフェローが日・韓・中を訪問するプランがASESで浮上しており、実現すれば2022年になる見込みです。

担当理事：菅谷啓之

委員長：三幡輝久

委員：井樋栄二、糸魚川善昭、乾浩明、瓜田淳、高橋憲正、谷口昇、松村昇、望月智之



## 高岸直人賞決定委員会

委員長 船越忠直

第47回日本肩関節学会のベストアブストラクトとして以下の17演題が選ばれました。

### 【基礎】

高田 裕平 (稲城市立病院 整形外科)

腱板断裂後の筋内脂肪浸潤には加齢と時間経過が必要である

井手尾 勝政 (熊本大学大学院生命科学研究部整形外科学分野)

腱板付着部線維軟骨の成熟過程における Scx/Sox9 共陽性細胞の局在

山裏 耕平 (神戸大学大学院 整形外科)

ラット腱板修復モデルにおけるうろこコラーゲンの有効性の検討

宗重 響子 (北里大学医学部整形外科学)

反復性肩関節脱臼の関節内では軽度の炎症が持続している

門間 太輔 (北海道大学病院 スポーツ医学診療センター)

4次元CTを用いた肩甲上腕関節接触面の解析

倉田 慎平 (奈良県立医科大学 整形外科)

Cross-body adduction view と肩鎖靭帯、烏口鎖骨靭帯の関連性

吉田 勇樹 (慶應義塾大学 整形外科)

立位四次元CTを用いた翼状肩甲の三次元動態解析

杉 憲 (釧路赤十字病院 整形外科)

上肢挙上動作時に肩鎖関節と烏口鎖骨間で生じる三次元動態の較差

新井 隆三 (京都大学 整形外科)

超音波顕微鏡を用いたコンマサイン構成線維の弾性評価

### 【臨床】

山本 宣幸 (東北大学 整形外科)

症候性腱板断裂の断裂拡大 —72肩の平均57ヶ月の前向き研究—

廣瀬 毅人 (大阪大学大学院医学系研究科整形外科)

アンカー挿入位置がBankart修復術後関節窩前縁変化に与える影響

小林 尚史 (KKR北陸病院 整形外科)

人工肩関節全置換術の合併症 —anatomical vs RSA, 多施設研究—



一般社団法人

日本肩関節学会

Japan Shoulder Society

Newsletter

安里 英樹 (首里千樹の杜クリニック)

腱板広範囲断裂に対する棘下筋回転移行術の長期成績

橋口 宏 (米倉脊椎・関節病院)

偽性麻痺肩に対する保存的治療の成績に影響を及ぼす因子の検討

川真田 純 (社会医療法人博愛会開西病院 整形外科)

肩関節手術後の CRPS 様症状の発症とその時期は術式で異なる

竹島 稔 (石鎚会 田辺中央病院 整形外科)

高齢者の上腕二頭筋腱長頭病変の疫学と関連因子についての検討

吉岡 千佳 (整形外科北新病院 上肢人工関節・内視鏡センター)

70 歳以上の CTA に対する小径人工骨頭置換術の 10 年以上成績

なお、2020 年 3 月より新たに基礎、臨床共に経験豊富な新井先生、乾先生、菊川先生、後藤 (昌) 先生、高橋先生、谷口先生に新委員加わって頂き、さらに公正で科学的な見地に基づく審査ができるものと考えております。

お忙しい中、ベストアブストラクトの論文選定にご協力をいただいた末永直樹会長はじめ、すべての代議員の先生に心からお礼を申し上げて、委員会報告と致します。

担当理事：伊崎輝昌

委員長：船越忠直

委員：新井隆三、乾浩明、岩堀裕介 (現会長)、大泉尚美、菊川憲志、北村歳男、後藤英之、後藤昌史、末永直樹 (前会長)、高瀬勝己 (次期会長)、高橋憲正、谷口昇、中川滋人、夏恒治、二村昭元、山本宣幸

アドバイザー：高岸憲二、玉井和哉

## 教育研修委員会

委員長 後藤英之

今年度の教育研修委員会の活動について報告致します。

第 12 回教育研修会を下記の内容で第 47 回日本肩関節学会開催期間中に開催しました。今回の学術総会はハイブリッド開催で、直接の参加が叶わなかった会員の方におかれましては、オンラインでの配信やオンデマンド聴講の早朝開催にも関わらず現地 18 名、リモート 179 名のご参加を賜りました。誠にありがとうございました。講演のハンドアウトは会員専用の学会ホームページから入手できるようにしていますのでご利用ください。

第 12 回教育研修会 会場：札幌アーキシティホテル

2020 年 10 月 9 日 (金)、10 日 (土) (8:30-9:30)



## 【教育研修講演 1】

座長：東海大学整形外科 内山善康先生

### 1. 肩関節不安定症の診断と治療

講師：トヨタ記念病院 整形外科 酒井忠博先生

### 2. 腱板断裂 (cuff tear arthropathy 含む) の診断と治療

講師：東海大学整形外科 内山善康先生

## 【教育研修講演 2】

座長：至学館大学健康科学部 後藤英之先生

### 1. 肩の機能解剖、バイオメカニクス

講師：東北大学 整形外科 山本宣幸先生

### 2. 肩の診察、画像診断

講師：至学館大学健康科学部 後藤英之先生

また、2020年9月11日(金)・12日(土)に、名古屋市立大学先端医療技術イノベーションセンターにて開催を予定していた第5回日本肩関節学会キャダバーワークショップは、新型コロナウイルス感染拡大の状況を考慮して中止としました。現在、海外でのワークショップが開催できず、国内でのキャダバーワークショップ開催が望まれている現状を踏まえて、来年こそは開催できるよう、感染予防に努めつつ準備を進めて参りますので、どうかよろしくお願ひ申し上げます。

教育研修委員会としては、会員の皆様の肩関節診療のお役に立てるよう研修会やワークショップなどの教育活動を行って参ります。今後ともご指導、ご意見を賜りますようお願い致します。

担当理事：菊川和彦

委員長：後藤英之

委員：相澤利武、内山善康、大泉尚美、国分毅、小林尚史、小林勉、酒井忠博、末永直樹、船越忠直、山本宣幸

## 学術委員会

委員長 藤井康成

2020年度の学術委員会の活動内容を報告させていただきます。

ここ数年は会員の皆様方に協力して頂きました「凍結肩」および「肩鎖関節脱臼」のアンケート調査の結果を元に報告を行って参りました。浜田純一郎先生のご尽力により「凍結肩」に関しては、2020年に英語論文も掲載され、第47回肩関節学会において学術委員会研究報告として発表を行い、雑誌「肩関節」に投稿予定であります。

また、「肩鎖関節脱臼」については高瀬理事が担当され、診断編が2020年英文掲載されましたが、今年は治療編がJSES internationalにacceptされ掲載予定です。同じく学術委員会報告として肩学会にて発表させていただきます。今回の肩学会で初めて、学術委員会報告のセッションを企画して頂きました第47回肩関節学会長の末永直樹先生に、この場を借りて深謝致します。

現在進行中の課題は、山本宣幸先生を中心に肩関節初回前方脱臼に対する外転外旋位固定法の多施設共同研究による前向き研究を行っております。また、新たな課題として若年者のスポーツ障害として稀な関節窩の離断性骨軟骨炎などを取り上げ、学会員を対象にアンケート調査を行うことも検討中であります。今後



とも学術委員会活動に対しまして、会員の皆様の益々のご理解ならびにご協力を賜りたく、宜しくお願ひ申し上げます。

担当理事：高瀬勝己

委員長：藤井康成

委員：乾浩明、後藤昌史、小林勉、塩崎浩之、田崎篤、畑幸彦、浜田純一郎、林田賢治、山門浩太郎、山本宣幸、横矢晋

アドバイザー：森澤豊

## 広報委員会

委員長 北村歳男

広報委員会の活動は日本肩学会の最新の情報や委員会活動などを会員および一般の皆様にお知らせすることにあります。日本肩関節学会ホームページ上にニュースレターとして年に2回発行し、今回で第15号となります。順調に発刊を重ねています。

前回14号では緊急企画を設け、「新型コロナウイルス第一波流行期における日本肩関節学会会員の診療への影響」として肩関節学会に限ったアンケート調査を行い、肩学会会員の現状を報告させていただきました。これからも学会の会員に必要な企画をお届けしたいと思ひます。

今年度は委員会構成に変更がありました。新理事として田中栄先生が就任されました。これまで広報委員会の理事であった望月由先生には委員会の委員として慰留いただき、委員会の活動を継続的に行える環境を整えることとしました。日本肩関節学会の情報を一層円滑に伝えられるよう、さらに日本肩関節学会が魅力ある学会であることを伝えられるよう新理事とともに努力したいと思ひます。

委員は新井隆三、大前博路、菊川憲志、北村歳男（委員長）、国分毅、小林勉、夏恒治、西中直也、松浦恒明、村成幸、望月由（五十音順、敬称略）で活発な意見を出ながら委員会活動を継続しています。皆様からご意見をいただきながら委員会活動を行う所存です。

何卒宜しくお願ひ申し上げます。

担当理事：田中 栄

委員長：北村歳男

委員：新井隆三、大前博路、菊川憲志、国分毅、小林勉、夏恒治、西中直也、村成幸、松浦恒明、望月由



## 財務委員会

委員長 中川滋人

---

2019年度は日本肩の運動機能研究会の演者・共同演者の準会員入会が義務づけられる初年度であったため、準会員1号、2号の入会者が多く、入会金・年会費が大幅に増加しました（ただし、二層化した準会員の募集は2020年3月から開始し、年度末の7月末までの期間が短いため、その期間の準会員1号、2号入会者は2020年度分の年会費を徴収しないことが決定しています）。また、COVID-19禍の影響で2020年度はキャダバーワークショップ、肩関節疾患手術手技フォーラム、交換留学などの事業が残念ながら中止となるため、支出が減少し経常収支は改善する見込みです。

また、2015年度に法人設立や事務局移転費用・JSES購読料初年度の支払いが重なり、一般会計の残高不足が発生したため、特別会計を組み高岸直人賞口座からの借入を行い、2016年度より5年計画で一般会計から毎年158万円を返済しておりましたが、2020年度が最終で完済となります。そのため2021年度以降は収支が改善するものと考えていますが、本学会の財務状況は決して潤沢ではありません。支出の更なる削減のため、役員会・委員会のWeb会議の推進をお願いしたいと思います。さらに、日本肩の運動機能研究会の安定した運営、そして本学会の財務の改善のためにも、正会員・準会員の先生方の身近におられるコメディカルの方々への準会員入会の勧誘を積極的に行ってください。また、近年、正会員入会者が減少傾向にありますので、学会の活性化のためにも若い正会員の入会の推進も宜しく願います。尚、2020年度以降（2020年8月以降）の準会員入会者については、正会員同様に翌年度の年会費徴収免除は適応されませんことをご承知おきください。

担当理事：岩堀裕介

委員長：中川滋人

委員：石毛徳之、内山善康、国分毅、酒井忠博、林田賢治、村成幸

外部アドバイザー：柄澤徹

## 定款等運用委員会

委員長 西中直也

---

本年度から正式に立ち上がった日本肩の運動機能研究会に関して、我々定款等運用委員会と日本肩の運動機能研究会運営委員会との間で、審議に審議を重ね以下の会則と規則が、理事会審議を経て2020年10月の社員総会で承認されました。

- 日本肩の運動機能研究会会則
- 日本肩の運動機能研究会運用委員会規則

今回のニュースレターで報告すべきはただ一つでありながら、非常に大きな意味をもつものでありました。日本肩の運動機能研究会は、一般社団法人日本肩関節学会に包括されており、日本肩の運動機能研究会運営委員会の下で運営されます。機能面がひととき重要視される肩関節治療にとって非常に大きな変革であり、海外に負けない高いレベルの治療へとつながるものと確信します。策定作業にご支援・協力いただきました皆様に、心から感謝申し上げます。

当委員会では、今後も必要に応じて既存の規則等の改定や、新たな規則等の策定にしっかり対応していきたいと思っております。どうぞよろしくご承知お願致します。



担当理事：伊崎輝昌

委員長：西中直也

委員：糸魚川善昭、柴田陽三、田崎篤、橋本卓、松村昇

アドバイザー：中川泰彰、森澤豊

外部アドバイザー：柄澤徹

## リバーズ型人工肩関節運用委員会

委員長 山門浩太郎

2014年に3社からの供給ではじまったリバーズ型人工肩関節も、2020年に日本MDMが参入して7社体制となり、手術症例数も毎年増加しています。海外の好成績に、デバイスラグを歎ずる日々が昔日譚となりつつあります。導入に当たられた諸先生方にあらためて感謝いたします。

認定講習会の受講は、新たにRSA手術を始める場合にリバーズ型人工肩関節ガイドラインに義務として明記されていますが、新規のRSA機種を使用するにあたっての該当メーカーの講習会受講は義務ではありません。しかしながら、各々の機種の特徴やピットフォールを理解するうえで受講を推奨します。

ところで、新型コロナウイルス感染症の懸念が続くなか、多くの学会や研究会がオンラインでおこなわれています。RSA講習会においても、リモート開催に関する運用規則を以下のように策定しました。

1. 聴講にあたって視聴ログが記録されている。
2. 提出された症例リストは日本整形外科学会症例レジストリー（JOANR）の制度に則り確認される。
3. JOA講習会に準じて、30分を超える遅刻が認められた場合は単位申請を許可しない。やむを得ない事情があったとしても、講習時間全体の1/4を超える退席・不視聴が確認された場合は、単位申請を許可しない。
4. 不正が認められた場合は、遡って資格を失効することが可能である。

また、2019年12月に改訂されたリバーズ型人工肩関節全置換術適正使用基準では実施医基準区分が腱板断裂実施医基準（実施医基準A）と上腕骨近位部骨折実施医基準（実施医基準B）の二種類の基準に区分されました。また、ガイドライン抵触の懸念や適応についての問い合わせは、肩学会事務局にご連絡して頂きRSA運用委員会にて対応いたします。また、治療方針に迷う症例相談も、以前と変わらず継続しております。

担当理事：菅谷啓之

委員長：山門浩太郎

委員：井樋栄二、落合信靖、木村明彦、小林尚史、松村昇、水野直子、最上敦彦

アドバイザー：高岸憲二、中川泰彰



## 日本肩の運動機能研究会運営委員会

委員長 浜田純一郎

2016年に肩の運動機能研究会ワーキンググループが発足し、研究会の組織づくりに取り組んでまいりました。2020年10月の第47回日本肩関節学会（以下肩関節学会）前日に開催された社員総会にて、日本肩の運動機能研究会（以下研究会）の会則および研究会運営委員会の規則が承認され、研究会は社会的組織としてスタートしました。そして肩関節学会のホームページから研究会のホームページの閲覧も可能になりました。この場をお借りし関係者の皆さまに御礼申し上げます。

肩関節学会における研究会の位置づけについて説明いたします。研究会は独立した団体ではなく肩関節学会の常設委員会の一つである研究会運営委員会の下に置かれ、実務は世話人会（理学・作業療法士10名により構成）に委託されます。研究会単独の会員は存在せず、肩関節学会の正会員、準会員1号と2号が会員を構成します。そしてこれらの各会員は研究会での発表、聴講が可能です。したがって、研究会の会則などの重要事項は肩関節学会理事会・社員総会で決定され、研究会の社会的責任も肩関節学会が負うことになります。

以上のように研究会のハード面は完成したのですがソフト面の整備が今後の課題です。例えば、肩関節学会の会長が任命する研究会会長が毎年研究会学術集会を主催しますが、世話人会が研究会会長をサポートするための体制づくりが必要です。今年は初年度であり、これまでに実績のある方を世話人として選出しましたが、将来は選挙制に移行する予定です。また理学・作業療法士以外の医療資格者の世話人会への参画も考慮しなくてはなりません。これらソフト面の課題を5年かけて整備する予定ですので、今後ともご意見をいただければ幸いです。

担当理事：岩堀裕介

委員長：浜田純一郎

委員：甲斐義浩、黒川大介、見目智紀、小林尚史、高村隆、田中稔、田中誠人、立花孝、船越忠直、村木孝行、森原徹、山口光國

## 選挙管理委員会

委員長 森原 徹

2020年度は理事、代議員と会長選挙を行いました。これまで選挙は毎年現地開催された社員総会で行っていましたが、しかし2020年はコロナウィルス感染拡大によって県をまたぐ移動制限が生じ、現地（札幌）またはWEB参加での開催となりました。

選挙方法については、社員総会時の会場・WEB投票による下記選挙と集計作業で生じる「3密」を回避するため、総会前日までにWEB投票を行い、社員総会時に選挙結果のみ発表することとしました（2020年8月6日の理事会で承認）。

投票時における個人情報の管理・投票方法の詳細については本学会の公認会計士 柄澤 徹先生と理事長に確認し、本学会事務局と連携し行いました。代議員の先生からも投票方法についてはご質問なく、極めてスムーズに期日までに投票を行うことができました。当方法は、コロナ禍の現状では適切で安全な方法の一つと考えます。



## 1. 理事選挙

2020年10月施行のweb理事選挙の結果、下記の理事を選任した。

(理事選挙公示は、2020年度の事業で公示済み)

●役員選出規則第8条 該当者

(信任9名・五十音順)

池上博泰 伊崎輝昌 今井晋二 岩堀裕介 菊川和彦 菅谷啓之 高瀬勝己 田中栄 橋口宏

総投票数64票、有効票64票、無効投票0票

最高得票数は62票、最低当選得票数は55票であった。

## 2. 代議員選挙

2020年10月施行のweb代議員選挙の結果、下記の代議員を選任した。

(代議員選挙公示は、2020年度の事業で公示済み)

●代議員選出規則第4条2 推薦基準(1)～(3) 該当者

(選任3名・五十音順)

糸魚川善昭 設楽仁 山口浩

総投票数64票、有効票64票

最高得票数は40票、最低当選得票数は37票であった。

\*はじめに、代議員立候補者13名に対し信任投票を行い、有効投票数の2/3以上を得票した5名を選任した。つぎに、公募枠(3名)に対する選任投票を行い、当選者を決定した。

## 3. 学術集会会長選挙

2020年10月施行の学術集会会長選挙の結果、下記のとおり決した。

(学術集会会長選挙公示は、2020年度の事業で公示済み)

第50回日本肩関節学会学術集長 正会員 池上博泰

(総投票総数64票、有効投票数64票、信任63票)

## 4. 2021年度

1. 2021年度代議員選挙(2021年6月公示、2021年10月投票)

2. 第51回学術集会会長選挙(同上)を施行する予定である。

委員長：森原 徹

委員：新井隆三、大泉尚美、田崎篤、橋本卓、松浦恒明、山口浩



## ▶ 事務局からのお知らせ

COVID-19が日本で認知され始め、早いもので1年が経ちました。

巷では「テレワーク」という言葉が広く知られるようになり、そして当たり前になった1年であった気がします。会員の皆様は日常的にマスクを着けていらっしゃるかもしれませんが、風邪をひいた時しか付けなかったマスクの着用も日常的になりました。

事務局も会社から在宅勤務を命じられ、事務局の電話を留守電にせざる得ない時期もありご迷惑をおかけしております。

そしてこの事務局だよりを書いている今も、第2波、第3波と呼ばれている感染拡大防止で緊急事態宣言が再発令され、出社と在宅勤務を混ぜての勤務となりました。

この1年間で、企業人としての働き方が大きく変わり、まだ戸惑いもあります。

出社をしても会社には他部署を含め数人しかおらず、社内ミーティングは、在宅勤務社員はWEBで参加、出社社員は会議室または密が気になる場合は自席でWEB参加などの対応となり、各席にも飛沫防止のためにパテーションが設置されています。歓迎会、送別会、会社の忘年会、決起会なども行われず、お昼も可能な限り単独で取るなど、社員同士のコミュニケーションが取りづらくなったというのが肌で一番感じています。

この状況下で業務対応が遅れている部分もあるかと思いますが、引き続き会員の皆様のお力になりたいと思いますので、よろしく願いいたします。



一般社団法人

日本肩関節学会

Japan Shoulder Society

Newsletter

編集

広報委員会

後記

村成幸

年明け早々、新型コロナウイルス感染拡大のため11都府県に緊急事態宣言が再発令され、全国的、世界的に右往左往する毎日ではないかと思えます。コロナの一刻も早い収束を望みつつ、全てのことに長所、短所があると思ひ、コロナで良いことがあったかと考えてみました。公衆衛生の重要性。手洗い、マスクによりコロナもさることながら、インフルエンザ感染が激減したことを見ると再認識させられます。リモート会議の利便性。病院内会議、大学カンファレンス、学会、セミナー、対面で行うことへの重要性を感じつつ、リモートで十分と思うことも多く、何より会議までの往復時間がなくなりました。日々のなにげない日常のありがたみ。東日本震災の時にも思いましたが、これまでの普通の生活が送れる事への感謝の気持ちは、未来を生きる希望になるのではないかと思います。

そんな中、新体制になった理事会を中心に、日本肩関節学会も前に進みます。15号のニュースレターができました。このご時世で一段とお忙しい中、ご寄稿頂いた先生方どうもありがとうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。



一般社団法人

日本肩関節学会

Japan Shoulder Society

編集：一般社団法人日本肩関節学会 広報委員会

田中栄（担当理事）、北村歳男（委員長）、新井隆三、大前博路、菊川憲志、国分毅、小林勉、夏恒治、西中直也、松浦恒明、村成幸、望月由

発行：一般社団法人日本肩関節学会

〒108-0073 東京都港区三田 3-13-12 三田 MT ビル 8 階 株式会社アイ・エス・エス内

TEL03-6369-9981/FAX03-6369-9982

E-mail office@shoulder-s.jp URL :<https://www.j-shoulder-s.jp/>